

学校の教育目標

なかのよい子ども 健康な子ども よく考える子ども

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

<子どもが楽しくきちんと学べる授業>
 ・教材・教具の工夫 ・互いに学び合い高め合う授業づくり ・体験的・問題解決的な学習
 ・指導法の工夫（TT、少人数） ・講師、学習サポーターの有効的な活用
 ・年間計画の評価と修正 ・基礎基本の徹底と定着

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	<子どもが楽しくきちんと学べる授業> ・教材・教具の工夫をする。 ・互いに学び合い高め合う授業づくりを心がける。 ・体験的・問題解決的な学習を取り入れる。 ・指導法の工夫（習熟度別少人数指導）をする。
思考力・判断力・表現力の育成	・講師、学習サポーターの有効的な活用をする。 ・年間計画の評価と修正をする。 ・基礎基本の徹底と定着を図る。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	・視聴覚教材を用いるなど、導入・展開などで児童が意欲をもてる工夫をする。 ・学年発表集会などで総合的な学習の時間で学習した内容の発表を行うなど、児童一人一人がすすんで発表し、学習していこうとする意欲を育てる。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題

○結果分析から明らかになった成果 ▲結果分析から明らかになった課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○学習力サポートテストの区の平均正答率と比べ、「話す・聞く」がほぼ同値である。テーマを決めて、日直のスピーチを行うことで、自信をもつ児童が増えている。 ▲学習力サポートテストの区の平均正答率に比べ、「関心・意欲・態度」が6ポイント、「書く」は12ポイント、「読む」は2ポイント、「言語事項」は7ポイント低い。特に、ローマ字のつづりの理解や、指定された長さで文章を書くことに課題がある。	○都学力調査の都の正答率と比べ、「話す・聞く」は2ポイント、「読む」は1ポイント、「言語」は3ポイント高い。スピーチを続けたり、読み聞かせを毎朝したり、漢字ミニテストをしたりしたことが成果につながっている。 ▲都学力調査の都の正答率と比べ、「関心・意欲・態度」は7ポイント、「書く」は6ポイント低い。また、読み解く力のうち「読み取る力」は16ポイント以上低い。文章を正しく読み取ったり、目的に沿って書いたりすることに課題がある。	○学習力サポートテストの区の平均正答率と比べ、「関心・意欲」が3ポイント、「書く」が8ポイント高い。 ○「言語事項」は、既習の漢字が定着しており9割の児童が正しく書ける。 ▲学習力サポートテストの区の平均正答率に比べ、「話す・聞く」が1ポイント、「読む」が3ポイント低い。話の構成を工夫し相手に伝わるように話ができる児童は半数程度しかいない。読み取った情報を基にして適切な文章を書くことを苦手としている児童が見られる。
算数	○学習力サポートテストでは、「関心・意欲」「技能」「知識・理解」が区の平均正答率	○都学力調査の都の正答率と比べ、「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「技能」「知識・	○学習力サポートテストでは、全ての観点で、区の平均正答率を上回っている。

	<p>を少し上回っている。特に「数と計算」の領域の結果がよい。</p> <p>▲学習力サポートテストでは、「数学的な考え方」が区の平均正答率に比べ6ポイント低い。計算の仕方の説明や、例示された考え方を正確に理解することに課題がある。</p> <p>▲学習力サポートテストの領域別では、「図形」「数量関係」の正答率が低い。</p>	<p>理解」は高い。学習への意欲を高めたり、考え方を話し合う力を高めたりしている成果である。</p> <p>▲読み解く力のうち、「読み取る力」が4ポイント低い。基礎基本を活用する力に課題がある。また、教科全体に課題がある児童が数名いる。</p>	<p>▲目標値に到達できていない児童が数名見られる。</p> <p>▲小数の計算や図形の角・円周など、個々の児童のつまづきの原因を探り、個に応じた指導を行う。</p>
社会	<p>○学習力サポートテストでは、「思考・判断・表現」は区の平均正答率とほぼ同値である。</p> <p>▲学習力サポートテストの区の平均正答率に比べ「関心意欲態度」は2ポイント、「知識・理解」は5ポイント低い。特に市の様子の内容に課題がある。</p>	<p>○都学力調査の都の正答率と比べ、「思考・判断・表現」は3ポイント高い。</p> <p>▲「関心・意欲・態度」は5ポイント、「技能」は3ポイント、「知識・理解」は5ポイント低い。資料から課題を見つけたり、地図上での位置を表したりする力に課題がある。</p>	<p>○学習力サポートテストの区の平均正答率に比べ、「思考・判断・表現」が3ポイント、「技能」が3ポイント近く高い。</p> <p>▲自分の考えをもてず、ノートに記述できない児童が数名見られる。</p>
理科	<p>○学習力サポートテストでは、「技能」は、区の平均正答率とほぼ同値である。</p> <p>▲学習力サポートテストの区の平均正答率に比べ、「関心・意欲・態度」「思考・表現」「知識・理解」は、2ポイント程度低い。特に「こん虫のからだのつくり」「身近な自然の観察」の内容に課題がある。</p>	<p>○都学力調査の都の正答率と比べ、「技能」と「知識・理解」はほぼ同値である。観察実験などの学習活動を通して、力を高めている。</p> <p>▲「関心・意欲・態度」は3ポイント低く、「思考・判断・表現」は4ポイント低い。現象から課題をつかんだり、実験の条件を考えたりする力に課題がある。</p>	<p>○学習力サポートテストでは、区の平均正答率に比べ、「思考・判断」が3ポイント、「技能」が3ポイント高い。一方、実験結果から考察を導けない児童が数名見られる。</p> <p>▲学習力サポートテストでは、区の平均正答率に比べ、「関心・意欲・態度」が3ポイント、「知識・理解」が1ポイント低い。用語を正確に理解できていない児童が見られる。</p>

調査以外の教科についての成果(○)と課題(▲)	<音楽>			
	関心・意欲・態度	○どの学年も概ね学習に前向きに取り組んでいる。		
	表現の創意工夫	○どの学年もグループで工夫する活動、音楽づくり、体を動かす活動等で達成できている。		
	表現の技能	▲全体としては技能が伸びたが、学年によって到達目標に達していない児童が数名いる。		
	鑑賞の能力	▲めあてに沿って聴いてそれを言葉に表す活動では、到達に課題がある。		
	<図画工作>			
	関心・意欲・態度	○どの学年も概ね学習に前向きに取り組んでいる。		
	表現の創意工夫	○どの学年も自分なりに楽しい作品にするための工夫ができています。		
	表現の技能	▲全体としては技能が伸びたが、学年によって到達目標に達していない児童が数名いる。		
	鑑賞の能力	▲作品に興味をもって見ることはできるが、よさを言語化することが難しい児童が数名見られる。		
	<家庭>			
	技能	▲家庭科では、全体的に器用に用具を扱うことが苦手な児童が多い。		
	知識・理解	○調理など、様々な生活経験をしている児童が多く、知識も豊かである。		
	<体育>			
	関心・意欲	○体育に対する関心・意欲は高く、体を動かしたり動きを工夫したりすることに積極的である。		
知識・理解	○保健など、様々な生活経験をしている児童が多く、知識も豊かである。			
調査以外の学年について1学期の学習にお	第1学年	国語	関心意欲	○国語に関する関心・意欲が高い。音読や読書に関する意欲が高い。
			話す聞く	▲最後までしっかり話を聞くことや、話すことに消極的な児童がいる。
			書くこと	○自分の考えを表現できる。 ▲作文のきまりや誤記など、継続指導が必要である。
			読むこと	○内容の読み取りがよくできている。
			言語事項	▲助詞や拗音の使い方の定着を図る必要がある。
	算数	関心意欲	○算数に関する関心・意欲が高い。計算や文章問題作りに意欲的である。	
		数学的な考え	▲答えを導き出す立式に課題がある児童が数名いる。	
		技能	○たし算と引き算は、ほとんどの児童が正確にできる。	
		知識理解	○大きな数を書いたり、時計を正しく読めたりできる。	
	第2学年	国語	関心意欲	○国語に関する関心・意欲が高い。読書の意欲が高い。
			話す聞く	▲順序よく話すことや大事なことを落とさずに聞くことに課題がある。
			書くこと	▲句読点やかぎかっこ、拗音や促音表記に課題がある。
			読むこと	○内容をよく理解し、登場人物の心情を読み取ることができる。
		言語事項	○漢字学習に意欲をもって取り組み、定着している。	
	算数	関心意欲	○算数に対する関心・意欲が高い。	
数学的な考え		▲問題の意味を捉えることができず、解決の手段を講じる手立てを考えると苦手な児童が多い。		
技能		○2けたのたし算引き算を解決する力が身に付いている。		

ける 成 果 (○) と 課 題 (▲)	第 3 学 年	国 語	知識理解	○計算の仕方、長さ・かさの単位を理解している。
			関心意欲	○国語に関する関心・意欲が高い。
			話す聞く	▲自分の伝えたいことを伝える際に、声の大きさや姿勢などに課題がある。
			書くこと	○例示を参考に、形式を意識して書くことができる。
			読むこと	○心情の変化を読み取ることができる。
	算 数		言語事項	▲漢字の音訓や漢字の習得に課題がある。
			関心意欲	○算数に対して、積極的に取り組む児童が多い。
			数学的な考え	▲既習内容を基に、新しい内容の解き方や考え方を表すことに課題がある。
			技能	○かけ算わり算の計算を正確にできる。
	社 会		知識理解	○計算の仕方や長さや時刻など、理解している。
			思考判断表現	▲地域の特色を地図から考えることに課題がある。
			知識理解	○身近な地域や公共施設の働きについて理解している。
			思考判断表現	○植物や動物の体のつくり、風やゴムの働きについて学んだことを表現している。
	理 科		思考判断表現	○植物や動物の体のつくり、風やゴムの働きについて学んだことを表現している。
技能			○観察技能が向上している。器具を正しく使えている。	

昨年度の授業改善プランに基づく結果 (○) と主な課題 (▲)

- 基礎的・基本的な力の定着や学習習慣を身に付けている児童が多い。
○すすんで読書をする児童が増えた。
▲各学級とも、継続した学習習慣や基礎基本の力に課題がある児童が数名いる。
▲積極的に人の話を聞くことに課題がある児童が、低・中学年に数名いる。
▲学年により、学力の定着に差がある。また、学級間でも差が見られる。全体的に、低位層の割合が増えている。



改善の方針	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、基礎的・基本的な学習習慣の定着を図っていく。 引き続き、学習習慣や相手の話をきちんと聞く力の定着を図っていく。 各教科とも、思考力・判断力・表現力を高める指導法を取り入れていく。 各教科とも、書く活動や話し合い活動を増やすことをしていく。
【本校の授業改善に向けた具体的な方策】 ○…学校全体での取組 △…教員個々による取組	
改善のための指導計画	○各教科の年間指導計画・評価規準を活用し、引き続き、学期ごとや年度末に見直しをする。 ○週案作成の実施と評価を一体と捉え、実態に即した指導となるよう学級や学年間で適宜見直す。 ○授業改善プランを共有し、現学年の指導に生かすとともに、他学年の状況も踏まえた指導の工夫・改善を図る。
改善する指導内容 (教科、領域、観点等)	改善のための指導方法、指導体制

国語「話す・聞く」	△討論会、学級会など、児童が自分の思いや考えを話したり、聞いたりする場を設ける。 ○話し方の形式を周知し、意図的に場を設定することで、話すことに引き続き慣れさせる。
国語「言語事項」	○各単元での言語活動を充実させることで、児童の学習意欲を喚起していく。 ○読書時間を一層確保する。辞典や辞書を引く習慣をつけさせる。
国語「書く」	△例文を掲示したり構成を示したり、書くことへの抵抗を減らすことで作文指導の工夫を図る。 △短文づくりや、視写・聴写の学習を継続して取り入れる。
算数「技能の観点」	○解き方をペアやグループで説明したり確認したりする時間を設ける。問題を解いた後の見直しを徹底するとともに、できなかった問題（特に計算問題）を復習していく。 ○少人数指導で基礎的・基本的な学習の定着を図るとともに、実態を共有し、個別指導や習熟度指導の充実を図る。
理科「実験・観察」「技能」「知識・理解」	○理科支援員と連携し、実験観察の場を通して、基本的な実験器具の使い方を習得させる。 ○実験・観察結果を基に、問題と照らして考察させることで思考する力を育成する。 ○板書や掲示、ノート指導を工夫し、理科で使用する用語の定着を引き続き図る。
評価活動の工夫	○座席表を利用したの、学習活動の評価の記録をする。 ○ノート・プリント類などで学習の定着を評価し、適宜コメント記入をする。 ○ワークシートやワークテストにより、間違いが多かった箇所の記録と児童への解説をする。
家庭や地域との連携の工夫	○課題の出し方を工夫し、家庭との連携を全体・個別を通して一層の充実を図る。 ○夏季学習教室を設定し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○体験的な学習を中心としたサマースクールを実施し、地域等の講師の依頼・連携を図る。 ○外部評価の活用を図る。
検証方法	○授業中の学習態度の観察・発表内容などから、児童一人一人の変容を評価・検証する。 ○都の算数少人数指導教員や区の算数講師と、児童一人一人についての評価を話し合い、検証する。 ○ノート・プリント・ワークシート等、児童の記入した学習内容から、評価・検証を行う。

【学力向上を支えるその他の取組】

- 朝自習「明正タイム」を実施し、漢字学習・計算学習・読書の時間を確保し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。
- 図書館指導員と連携し、図書室の整備・充実を図り、本に親しむ活動を通して、思考力や想像力の育成を図る。また、年に複数回、外部講師による読み聞かせを実施する。
- スクールカウンセラーや特別支援教育アドバイザーとの連携を図り、支援を必要とする児童に対する理解に努め、児童の学力向上のための方策を検討する。
- 算数の校内研究を通して、学習指導のポイント、少人数指導による学習内容や指導法について協議し、全体で共通理解して指導に生かす。